

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401103		
法人名	医療法人 弘池会		
事業所名	グループホームかづさの杜		
所在地	長崎県南島原市加津佐町戊4427番地		
自己評価作成日	令和4年12月1日	評価結果市町村受理日	令和5年2月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	令和5年1月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは山間部にあり、周りが緑に囲まれた自然豊かな環境で、利用者様は静かでゆっくりとした生活を送られています。また医療法人で母体が病院である為、急な体調不良などがあっても24時間いつでも診察を受ける事が出来ます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

3階建ての2階部分が当ホーム、1階がホーム2号館、3階が住宅型有料老人ホームと系列事業所により構成された建物内にホームがあり、自然豊かな閑静な場所に立地している。現在、コロナ禍により地域との交流を制限しているが、管理者はコロナ禍が収束した場合は以前のように地域の保育園児の遊戯会や小学校の運動会等へ参加する意向である。食事は母体法人の栄養士の献立をもとに旬の野菜を使用して職員が調理し、入居者の嚥下状態に合わせて刻みやトロミ食等を提供し、食事の香りや、時には入居者へ料理の味見をしてもらうなど、美味しく食事が摂れるよう取り組んでいる。また、誕生会には手作りケーキ、敬老会にはお寿司、正月にはおせち料理を提供するなど食事が楽しみとなるよう取り組んでいる。入居者の希望により嗜好品(菓子・酒・たばこ等)も提供している。医療法人が母体となっており、急変時にも24時間対応できる体制を整えており入居者・家族の安心に繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット名

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な環境で自分らしい生活のリズムを保ち、共同で暮らすことによって、精神的に安定した健康で明るい生活を支援します。の理念のもとに日々のケアを行っている。	職員は朝の申し送りの際に理念を確認している。理念に謳っている「家庭的な環境で自分らしい生活のリズムを保ち、共同で暮らすことによって、精神的に安定した健康で明るい生活を支援する」ことができたか気づいたことを記録に残している。毎月の会議の時には理念に沿った入居支援ができたか振り返り実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	もともと環境的に地域交流が少ないうえに新型コロナウイルス感染防止のため外部との交流は出来ていない。交流ができる状態になれば以前のような地域の保育園や学校行事に参加したい。	ホームは山間部に位置し、周辺の民家も疎らである為地域との地域交流が少ないのが現状である。尚、運営推進委員である自治会長から適宜自治会の情報を得ている。管理者はコロナ禍収束後、以前のように地域の保育園の遊戯会や小学校の運動会へ参加する意向である。また、法人施設全体で行う夏祭りのほか、食事会や家族会も行う意向である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報誌の発行を通じて事業所の活動を伝えている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染防止のため書面での開催の為、話し合いはあまり出来ていない。意見ば意見書に記載してもらい活かせるように努めている	運営推進会議は、代表・管理者・家族代表・自治会長・市地域包括支援センター職員により構成し、各委員へ入居者状況や行事を行った内容報告を行い、意見や要望を聴取している。コロナ禍により書面会議とし、各委員へ資料と共に意見書を同封し郵送している。出された質問や意見は運営に活かせるよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	メールや書面を通じて、報告や相談を行っている。	運営推進会に市地域包括支援センター職員が参加し、入居者の状況やホームの取り組みを知らせ意見・要望を伺っている。コロナの感染状況や予防方法などメールや電話にて情報を得、運営に活かしている。生活保護課の職員が訪問し、ホームの生活状況など情報を伝えている。行政等から各種研修会の案内があり、職員が参加するなどサービスの向上に活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止のため、個々にあわせた支援方法を考えて実施している。併設施設と身体拘束委員会を設置し会議や、勉強会を定期的に行っている。	ホームは身体拘束適正化のための指針を整備し、職員へ周知を図っている。現在、身体拘束が必要な方はいない。毎月、職員が関連施設と合同で開催する身体拘束廃止委員会に参加している。同委員会で話し合った内容は全職員に周知を図り、全職員がレポートを提出して共通の認識を持つよう取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修や法人内での勉強会へ参加することで理解と防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的な研修などに参加する機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前から訪問、来訪して頂き十分に説明し、理解頂けている。改定などあれば、毎月の面談時やその都度できちんと説明し、同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月家族面談(電話等にて)を行い、話しやすい関係を作っている。意見、要望はスタッフ間で共有し解決できるように努めている。	コロナ禍の為、家族との面会を制限している。タブレットを活用した面会や、短時間玄関ドア越しで面会するなど本人の顔を見て話せる機会が持てるよう工夫している。年2回、広報誌を発行し、行事参加の入居者の様子を写真に載せ、詳細に説明している。職員は毎月、電話で家族と入居者状況を知らせ、意見や要望を聞き、家族と信頼関係を築き、家族の安心や喜びに繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時や直接意見を聞いたり、連絡ノートで意見交換を行い反映させている。	ミーティングや申し送りの際に職員意見を聞き運営に反映できるよう努めている。レクリエーションの道具のほか、風呂場のスリッパ、台所のお玉など、各種備品や消耗品の購入は、職員が発注伝票により発注している。冷蔵庫など高額な物品は管理者が法人へ伺いを立て購入している。働きやすい職場環境に配慮し、時間調整や希望休など休暇を取りやすくしている。	今年度よりハラスメント対策が強化されていることを踏まえ、円滑な職員意見の反映に繋げる為にも、今後、方針等の明確化、相談窓口設置、研修実施等、ハラスメント体制の整備に具体的に取り組まれることを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい環境になるよう、時間調整や休みを取りやすくしている。またオンライン研修など勉強会に参加できるように調整を行い、各々のキャリアに合わせて手当を支給しモチベーションアップにつなげている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部のオンライン研修や法人内の勉強会を受けられるようにしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	島原半島グループホーム連絡協議会に加入し研修会、親睦会に参加し交流を図っているが、新型コロナウイルス感染対策の為交流は減っている		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に見学に来て頂いたり、調査訪問を通して要望を伺い安心して生活してもらえよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に見学に来て頂いたり、調査訪問を通して要望を伺い、良い関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援の提供が難しい場合は他のサービスを勧めたり、居宅のケアマネジャーへ相談している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日を共に過ごし生活することによって良い信頼関係が築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	こまめに連絡を行い本人の様子を伝えたり、本人から電話してもらったりしている。新型コロナウイルス流行の為オンライン面会もできるようにし、時々利用されている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染防止のため難しいが、ドライブなどで出かけたときに近場を通るようにしている。	コロナ禍により、家族や親せき等、馴染みの人との面会を制限している。職員は、日頃より入居者の家族や親せきなど馴染みの方から入居者へ電話してもらえるよう働きかけている。馴染みの方から入居者へ電話があった場合は、事務所でゆくりと入居者が電話で話ができるよう配慮し、馴染みの人との関係が途切れないよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中で各々出来る事を出る範囲で手伝って頂きスタッフが間に入り良い関係が出来るように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院などで退去後も出来る限り面会に行き、相談等を受けて状況に応じて支援できるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションや家族面談を行う中で希望や意向を汲み取れるように努めている。	職員はお茶の時間を通してゆっくりと雑談をしながら入居者に寄り添い、入居者それぞれの思いや意向を汲み取るよう努めている。思いや意向を汲み取ることが困難な場合は、その方の表情や態度を見て、また、家族から情報を聞いて希望に沿った支援に努めている。入居者や家族から聞き取った内容は記録に残し、職員間で情報を共有し支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の調査で生活歴等伺っている。また、入居されてからも話の中からさらに把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活記録を作成、記載し一人一人の状態の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の家族面談等で本人・家族から意見や要望を聞き、職員へも意見をもらいながら介護計画に反映させている。	担当職員が入居者の生活記録にて健康状態を把握し、ケアマネージャーと介護計画原案を作成し、他の職員とモニタリングを行って介護計画を作成している。家族には、電話にて説明しており、郵送して同意を頂いている。介護計画は、ファイリングして職員詰め所にて共有している。介護計画の見直しは、3か月1回行い、状態変化があった場合は随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活記録を作成し記載している。毎日の申し送りや連絡ノートで情報の共有を図り支援に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力病院や訪問看護との連携を活かし、医療・健康面でのニーズに対応できるよう支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染予防のため地域の催しなどに出かけるなど出来ていない。感染状況などを見ながら検討していく。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	原則、協力病院がかかりつけ医となり急変時や定期的な受診ができるよう支援しているが、家族の状況に応じて可能な範囲で他病院への受診支援も行っている。	入居の際に定期受診や急変時に24時間対応できることを知らせている。かかりつけ医は母体法人の協力医を基本としている。眼科は職員が受診に同行支援を行い、耳鼻科への受診は家族が同行している。歯科は協力歯科医が定期的に訪問医療を行っている。受診の際は職員が個人記録を持参し、的確な医療を受けられるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護の健康チェックがある。また、いつでも相談ができ必要時は都度訪問してもらうことで適切な看護を提供している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院関係者との連絡、情報交換に努め早期退院や退院後のケアについての相談ができるよう関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時やその都度の話し合いにて説明を行い、本人の状態に応じた支援が出来るように家族、病院、訪問看護と連携し取り組むようにしている。	入居契約時にホームの看取り方針について、入居者及び家族へ伝えている。入居者の重度化に伴い、入居者・家族・かかりつけ医・訪問看護師・職員が話し合い、家族や本人の希望に添った支援に努めている。看取り指針を整備し、家族から希望があればホームにて看取りを行う方針である。	看取り支援を実施するにあたり、看取りの手順の確認や看取りに対する職員の不安感も生じることが想定される為、看取り支援の研修会や看取り支援後には職員に精神的負担がないか確認し、必要に応じて職員ケアを実施するなど今後の体制整備に期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救命救急の研修や勉強会に参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	定期的に避難・消火訓練を行い、併設の老健や協力病院との協力体制もある。毎日と月1回の定期点検を行い未然の対策に努めている。また、災害時BCPを作成中で、机上訓練も行った。	年2回、火災想定避難訓練を併設の関連事業所と合同で実施している。有事を想定し、緊急連絡網で状況を職員へ伝達すると共に、非常食等の備蓄や、非常持出品の準備ができています。現在、BCPは併設事業所と連携できるよう策定を進めている。	ハザードマップは職員が目につき避難経路等を確認できるよう掲示することが望まれる。自然災害が顕著になっていることを踏まえ、ホームの現状に沿った防災計画を整備し、職員と共有すると共に防災訓練の実施に活かすことが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	併設の施設と接遇委員会を設置しており、毎月の会議や定期的な勉強会に参加し適切な対応ができるよう努めている。	入居の際、入居者・家族には写真掲載を口頭にて同意を得ている。毎月、併設の関連事業所と接遇委員会を開催し、困難事例等があった場合は委員会にてアンケートを実施し、職員意見を聞いて解決に繋げている。年2回、接遇研修会を実施し、意識付けを図っている。職員は誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。	入居の際、入居者・家族には広報誌やホーム内の写真の掲載に関し説明し、口頭で同意を得ているが、トラブル防止の観点から、今後、書面により家族の同意を残すことが望ましい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望が尊重されるよう選択的な声掛けを行うようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れの中でも生活記録を生かしながら一人一人のペースに合わせた生活ができるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの化粧品や、衣類を持ってもらったり購入している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みや身体の状態に応じてメニューを変えたりして対応している。また、かたづけや掃除等できる範囲の家事を行ってもらっている。また個別に食後や好きな時間に嗜好品も取り入れている。	食事は母体法人の栄養士の献立をもとに旬の野菜を使用して職員が調理し、入居者の嚥下状態に合わせて刻みやトロミ食等を提供し、食事の香りや、時には入居者へ料理の味見をしてもらうなど、美味しく食事が摂れるよう取り組んでいる。また、誕生会には手作りケーキ、敬老会にはお寿司、正月にはおせち料理を提供するなど食事が楽しみとなるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎回食事・水分摂取量のチェックをし、体調に応じて食欲が無いときは好みの物を提供している。10時と15時にはお茶とおやつを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけや介助にて口腔ケアをもらっている。また定期的に義歯洗浄を行ったり、協力歯科医に助言をもらっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックシートを活用して一人一人のパターンを把握し、声かけや本人の様子を見て誘導を行っている。	職員は排泄チェックシートを用いて入居者個々に合わせた排泄介助を行い、トイレで排泄ができるよう支援している。夜間は、時間を見てポータブルトイレへ誘導しているが、側臥位になると尿漏れする可能性があることを踏まえ、パッドの大きさや当て方を検討し、適宜変更しながら尿漏れを起させないよう工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分の摂取量を把握し、少ない場合は嗜好品などで摂取量を確保しながら、毎日軽い運動をもらっている。慢性的な場合は訪問看護やかかりつけ医へ相談し薬の調整等の支援も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時は湯温や湯船に入る時間等の希望に沿い、上がった時に良いお風呂だったと言ってもらえるような支援を努めている。また身体の状態によって湯船に入られない方もおられるので、寒くないようかけ湯をしっかりするようにしている。	入浴は週2~3回を基本として支援している。入浴を拒否する方には、声かけする職員を変更したり、入浴時間を変更するなど、無理強いせず、その日は清拭に変更し下着を交換するなど柔軟に対応し、次の日に入浴できるよう支援している。重度化した方には安全に留意してシャワー浴と足浴を行っている。浴室と脱衣場を温め、時季により菖蒲湯やゆず湯を行うなど入浴を楽しんでもらえるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活記録を生かし日々の生活習慣を職員で共有して個人のペースに合わせてながら居室や居間などでゆっくりできるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示や薬剤情報から薬の目的を理解し、服薬ミスを減らすようセット、チェックを行い服薬支援をしている。変化があればすぐに医師や薬剤師へ報告相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人にできる範囲で家事を手伝ってもらったり、読書、新聞観覧、散歩をして気分転換を支援している。嗜好品も楽しませている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	病院受診、行事などで外出する以外にも、個々の希望があればその都度職員や家族の協力のもと外出できるように支援しているが新型コロナウイルス感染防止の為難しい時は職員が代行して対応する。	病院受診後に近隣をドライブしたり、季節の花見などは車窓から眺めてもらったり、人と密にならない時間に見学するなど工夫し外出支援を行っている。本人の希望により買い物支援を行っていたが、コロナ禍の為、本人の希望を聞いて職員が代行して買い物を行うこともある。好天時は、車イスの方も一緒にホーム近隣の桜を見て散歩したり、お茶を飲みながら気分転換を図る機会を設けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いとして預かり管理しているが、希望される方は手持ちのお金を持たせ、出来るだけ無くなったりしないよう気がけている。買い物で使えるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時は電話をかけて頂けるように支援している。手紙のやり取りも希望時には支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感が出るよう、職員が持ち込んだ花や庭の花壇に咲いている花を飾ったり、空調・明りの調節をして心地よい空間づくりに努めている。	建物の2階部分にホームがあり、眺望良く、明るい雰囲気、共用空間には季節の飾り付けがあり季節を感じられる。清掃は消毒液を用いて拭き掃除を行い、食事後も拭き掃除を行い、衛生面に留意している。エアコンは、季節の変わり目毎に清掃している。毎日、窓を開け換気を行い、共用空間の空調管理を随時行いながら入居者が快適に過ごせるよう取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人自分の好きな時に好きな場所でくつろいで過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から持ってきたものや、家族が持ち込まれた品を使ったり、飾ったりして居心地良く過ごせるよう支援している。	入居の際、入居者及び家族と相談してテレビ・縫いぐるみ・衣装かけなどの手回り品を置いて入居者の動線に合わせた居室づくりを支援している。テーブル・収納家具・電動ベット・掛布団・エアコン・洗面台や押し入れを整備している。居室は職員が整理整頓掃を心がけ、消毒液にて拭き掃除を行いながら清潔保持に留意しており、居心地よく過ごせる居室となるよう努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は居間以外の段差は無くトイレや廊下、浴室等には手すりがあり、車椅子でも生活しやすいような広さがある。		